

GREEN

全農長野県本部情報 グリーンレーダー

Rader

2025

6

Vol.553



重点事業方針 生産販売部 果実花き課の取り組み

A-Policy

くらし支援部 くらし支援課の取り組み

中期事業計画(令和4～6年度)最終年度における進捗状況について・・・4～6

A-Reports

- | | | | |
|--------------------------------|---|-------------------------|----|
| ・「第51回長野県ブラック&ホワイトショウ」開催 | 7 | ・農林水産大臣より「フラッグシップ産地」に認定 | 10 |
| ・京都食肉市場(株)にて「第37回信州和牛枝肉共励会」開催 | 7 | ・JA全農長野の事業現況 | 10 |
| ・大学生が企画した「信州の花フェア用ブースキット」を利用した | | ・6月のラジオ番組表 | 10 |
| 切り花即売イベント | 8 | ・編集後記 | 10 |
| ・県スポーツ協会に長野米などを寄贈 | 8 | | |
| ・新採用職員紹介 | 9 | | |



光と風と水のハーモニー

JA全農長野

果実花き課

生産販売部 果実花き課の取り組み
令和7年度の重点推進事項について

重点目標Ⅰ
マーケットインによる生産基盤強化と
系統集荷販売対策

目標1. リンゴ販売数量の確保

課題(1)	生産量・系統集荷量・販売数量の減少
課題	対策
①生産実態の把握と生産性向上、集荷対策	①生産計画とりまとめ ②生産計画達成への技術的指導体制のフォロー（JA長野県営農指導者会議、果実専門部と連携した課題別等の講習会開催） ③継続した農家訪問の実施（JA集荷所への出荷誘導、販売企画の提案） ④特別集荷企画（ギフト、訳あり、簡易荷造り等）の提案、りんご三兄弟・サンふじの集荷に向けた特別規格提案
②高温による着色不良・品質不良、ロスの増加	①遮光資材・多目的防災網の導入推進（補助事業の周知・活用） ②優良着色系統・品種・黄色系品種の推進 ③改植の推進（果樹経営支援事業の活用促進） ④JAごと改植計画・目標策定と進捗フォロー
	令和7年度目標 ①リンゴ販売数量300万ケース ②第一次生産計画とりまとめ（6月中）、以降年3回修正計画の集約 ③農家訪問50戸（新規5戸） ④特別販売企画 3アイテム

課題(2) 系統共販のメリットを生かした販売とブランド・認知度向上

課題	対策
①実需者営業の強化による計画的な売場づくり	①品種リレーによる売場づくりの計画的な事前提案（早生種からの集中宣伝会実施による早期売場確保と、晩生種までの売場づくり・安定販売） ②卸売会社、実需者など関係者に向けた品目・産地研修会の開催 ③店舗従業員に向けた品目・産地研修による理解・親近感の向上
	令和7年度目標 ①重点卸売会社・重点実需者との連携強化 ②1県外協議会、1実需者 ③重点実需者の店舗従業員対象

目標2. トルコギキョウ販売数量の確保

課題(1) 夏場の暑さによる生産量の減少・品質低下

課題	対策
①土壌病害によるロスの増加（生産性の低下） ②夏場の品質低下	①抵抗性品種の紹介・導入、土壌消毒の徹底 ②高温対策資材等の導入推進（全生育期間を通した遮光方法も検討）
	令和7年度目標 ①トルコギキョウ販売数量670万本

課題(2) 生産性の向上

課題	対策
①切花率の調査による個別課題の明確化と対策 ②JA技術員の指導レベル向上、生産者への指導・伝達	①圃場図作成と個別課題・巡回記録・品種別採花率の作成により、次期作の品種検討や、課題改善までを追跡・フォロー ②技術員向け研修会の開催 ③生産者に向けた技術や品種などの情報提供と生産意欲の向上対策
	令和7年度目標 ①年2回（生産技術、コミュニケーション、事例発表） ②全県もしくはブロックでの生産振興研修会の開催

課題	対策
②消費量の維持・拡大につながる企画（ブランド力向上）	①各種商標を活用した県内産果実のPR ②量販店を中心とした店頭試食宣伝会の強化拡大 ③各種メディアや新たな宣伝手法の検討による系統商品の継続的なPR（集荷対策含め）
	令和7年度目標 ①店頭宣伝会実施目標のべ400店舗実施 ②県内ラジオ、パシヤフルアカウント活用（フクロワール万人超え維持）、SNSを活用した企画づくり

目標3. アルストロメリア販売数量の確保

課題(1) 県内JAの技術レベル高位平準化

課題	対策	令和7年度目標
①切花率の調査による個別課題の明確化と対策 ②JA技術員の栽培指導レベル向上	①全戸巡回による圃場図作成と個別課題・巡回記録の作成による改善までの追跡・フォロー ②県下での統一講習会の開催、合同販売の強化	①アルストロメリア販売数量1,450万本 ②年5回開催

課題(2) 新品種の試作による優良品種の選定と、メーカーと連携した育種・種苗確保

課題	対策	令和7年度目標
①優良種苗確保の継続的な取り組み ②生産性の高い品種の導入推進	①種苗生産地オランダで種苗会社（ブリーダー）との情報交換と有望品種候補の選定を、本会の業務として確立する ②試作圃場での優良品種選定と展示公開による検討 ③種苗品種説明会の開催 ④導入品種の個別面談による品種相談会の実施	①オランダの種苗メーカーでの試作品種選定 ②県内2か所での優良品種試作と展示圃公開 ③4JAでの品種検討会開催 ④花き購買種苗供給高2.6億円

重点目標Ⅱ

花き広域営農技術員の設置および花き共計販売に向けた検討

目標1. 広域営農技術員の配置

課題(1) 広域指導体制（東信地区）の検討

課題	対策	令和7年度目標
①各JAにおける花き事業の取扱額減少による人員削減 ②花き事業の経営収支改善（合理化）	①3JAの方向性を改めて確認（JA、中央会、事業所） ②3JAへ提案された農林中金の経営改善案の再確認・検討 ③JA別強化品目の設定と取り扱い目標の設定・推進 ④運営経費、営農技術員の設置検討（費用配分）	広域指導体制（東信地区）の検討

課題(2) 広域指導体制（東信地区以外）の検討

課題	対策	令和7年度目標
①各JAにおける花き事業の取扱額減少による人員削減 ②花き事業の経営収支改善（合理化）	①JA別強化品目の設定と取扱目標の設定・推進（実績確保） ②各JAの花き事業における経営収支実態調査	継続検討

目標2. 花き共計販売に向けた検討

課題(1) 東信地区共計販売体制の検討

課題	対策	令和7年度目標
①共計販売の有利性の整理 ②出荷規格の統一 ③経費設定の統一	①共計販売による優位性を実証 ②県内、県外他産地の共計販売先進地事例の研究 ①新たな全県統一出荷規格を設定 ①現出荷経費の調査と整理、新出荷経費の試算	①県内共計事例2か所研究 ②他県産地の共計事例2か所研究 ①新出荷規格2品目設定（共計可能品目の仮設定）

目標3. 生産振興品目の拡大、技術普及を目的とした生産振興部との連携による県本部生産農場の検討

課題(1) 生産振興部と連携した候補地、栽培作物検討

課題	対策	令和7年度目標
①生産振興部との連携による生産農場の検討	①生産農場運営のための調査項目洗い出し ②生産農場運営事例の調査・視察 ③調査項目に基づく品目別経営実態調査（県内生産者等） ④先進事例調査による運営方法、栽培品目、生産地などの検討 ⑤JAが運営する子会社等との連携検討	生産農場の検討

くらし支援課

「和牛焼肉 信州そだち」オープン
くらし支援部 くらし支援課の取り組み

JA全農の直営飲食店「和牛焼肉 信州そだち」が5月7日(水)、長野駅前にて新規オープンしました(Ⅱ表紙右)。

全農グループでは、国産農畜産物の消費拡大およびPR強化や外食産業における国産農畜産物の利用促進を目的に、直営飲食店「みのる食堂」「みのるダイニング」「みのりカフェ」など、全国で48店舗を展開しています。

「和牛焼肉 信州そだち」は49店舗目で、長野県では初出店となります。メインとなる長野県が誇るブランド和牛「信州和牛」は長野県農協直販(株)から一頭買いし、各部位を堪能できる「盛り合わせ」や



大きなれんが掛かった店舗入り口

「食べ比べメニュー」を提供しています。牛肉のみならずブランド豚「信州ポーク」も用意しています。また、焼肉に欠かせないお米は、氷温領域で一定期間熟成させることでより一層おいしさが増す長野県産ブランド米「氷温熟成米(コシヒカリ)」を(株)マイパール長野より仕入れています。さらに、つけあわせの旬の野菜やきのこ、果物についても長野県産を優先的に使用しています。

94坪の店内に98席を設け、2名から10名まで利用できる3部屋の個室のほか、数十名の宴会など様々なシーンで利用できるレイアウトになっています。開業に先立ち4月23日(水)に県下JAの組合長や各

連合会の代表など関係者を対象に「お披露目会」を開催し、4月30日(水)には県内のマスメディア向けに「メディア懇談会」を開催しました。両日とも全農から開店に至る経緯を説明し、全農長野の高木昭彦副本部長が「店舗を通じて長野県が誇る農畜産物が提供され、国内外へのPRにつながることを期待します」と挨拶しました。

ニュースや新聞記事で取り上げられた効果もあり、1日130名ほどの来店客でにぎわっています。今後、全農長野では県内各地の農畜産物の販促企画を提案し、店舗利用者のリピート率の向上と農家生産者の支援を行ってまいります。皆様もぜひ、各種宴会や家族団らんの場としてご利用ください。

和牛焼肉

信州そだち

信州和牛

JA長野県

全農

▲信州そだち
ロゴマーク



◀QRコード



お披露目会の挨拶をする高木副本部長

中期事業計画（令和4～6年度） 最終年度における進捗状況について

全農長野県本部は、中期事業計画の最終年度にあたり、行動計画の実践によりJA支援に取り組むとともに、JA及び子会社とともに農業所得の増大と地域の活性化に取り組みました。

I. 【中期事業計画における基本目標】令和7年3月末時点での総括

その1 持続的な農業生産基盤づくりによる農業生産量の維持拡大

- (1) マーケットニーズを踏まえ、地域実態・担い手ニーズに対応した栽培技術提案に取り組むとともに、生産安定に向けた現地指導、栽培講習会を通じて営農指導支援体制の強化に努めました。
- (2) 気象変動や災害に対応した施設強化対策と生産安定化に向けた施設化を推進しました。また、労働力不足や生産性向上等の課題解決に向けスマート農業・農業DX化の導入をすすめました。

その2 販売力強化とコスト低減による農家組合員の手取り最大化

- (1) 生産コスト上昇分の価格転嫁に向け、重点卸売会社・実需者に対し、産地生産実態の理解醸成をはかり、契約取引における価格提案に取り組みました。
- (2) 包材や肥料のコスト抑制、農機低価格モデル共同購入や県域推奨型式の重点購買に取り組むとともに、農業生産用燃料支援対策の実施により生産コストの圧縮をはかりました。

その3 JA経済事業の収支改善と活気ある地域社会づくり

- (1) 生産資材物流拠点の再編、戸配送管理システムの活用による効率的な戸配送物流への対応をすすめました。また、ライフラインSS協同経営方式による事業運営を開始し、地域ライフライン機能の確保に取り組みました。
- (2) 石油・ガス・電気を融合したホームエネルギー事業の展開による収支改善と体制強化に取り組むとともに、キャッシュレス決済、ポータルサイトを推進し組合員満足度の向上に取り組みました。

II. 【中期事業計画における取り組みの特記事項】令和7年3月末時点での総括

その1 担い手推進センターの取り組み

- (1) 生産振興提案・購買事業の利用拡大・系統集荷量の拡大を目的に、JAと連携し地域の担い手への推進を行い、担い手のニーズや課題の把握を行いました。
- (2) 担い手からの要望や課題に対しては、各事業所と本所3部門で共有、協議するとともに、解決案等の具体的提案を行いました。
- (3) 担い手訪問推進の回数は、108件の担い手（経営体）に対して、183回の訪問となっています。

その2 農業生産管理支援システムの進捗状況

- (1) 全体進捗
関係部署を招集のうえ開発進捗会議を行い、県本部方針やシステム別の開発概要・B1ツール活用等について協議を行いました。また、各JA企画担当役員及び中央会との協議のうえ、JA全農長野次中期3カ年DXビジョンの策定を進めました。
- (2) 各システムの進捗状況

情報発信	全JAにて稼働しています。組合員MYページやあい作との連携、閲覧記録確認・広告掲載機能によりJA・生産者への有益な情報の発信に努めます。
圃場カルテ	アスパラガスの反収向上に向けた利用拡大と新品目として高密度りんごのシステム開発をすすめました。あい作栽培管理システムとの連携開発をすすめます。
青果物販売管理	予約集計システムが5月に稼働、出荷報告システムが7月にテスト稼働しました。荷受・JA分荷・県域分荷の各システムは令和7年10月のテスト稼働に向け開発をすすめます。
土壌診断	組合員サービスの向上と事務効率化のために申請及び結果報告の機能を構築し、令和6年度米出荷契約では4JAで運用しました。
米穀出荷管理	6月から全JAにて稼働しています。圃場カルテシステム等との連携開発をすすめます。
肥料農薬カタログ	出荷契約のWebシステム入力と協同電算「米穀システム」への連携機能を構築し、令和6年度米出荷契約では4JAで運用しました。
	県本部取扱品目について、カタログ機能をもった商品マスタシステムを開発しました。9月より全JAにて稼働しています。従来の商品情報・画像の一括ダウンロード機能に加え、店舗用POPデータ格納機能の開発をすすめます。

III. 各事業別 令和7年3月末進捗状況

【生産振興部】

実行具体策	6年度計画	進捗状況	達成度合いと今後のすめ方
1. 産地基盤維持に向けた生産振興の推進			
(1) マーケットニーズ、担い手ニーズに応じた3部連携による生産・販売支援	推進拡大提案	担い手への栽培技術や資材の提案	果菜類及びアスパラガスの栽培技術提案や品質向上に向けた実証圃の設置をすすめた。
(2) リンゴ高密度栽培の普及拡大	5200ha	5200ha	生産安定に向けた現地指導を実施し、引き続き、栽培講習会等を開催し、課題解決に向けた技術指導を実施する。
(3) JA生産法人と連携した実証圃設置や作業受託等地域振興への取り組み	4法人（継続含）	アスパラガス（2法人） ピーマン（2法人）	簡易施設栽培、品種試験や新たな栽培技術の実証試験を実施。実証結果を踏まえ、普及拡大に向けた提案を行った。
2. 気象変動に対応した生産安定化対策と災害対策の推進			
(1) リンゴ高密度栽培のトレリス強化対策推進と多目的ネットの普及拡大	ネット6ha 現地検討4カ所	ネット9.9ha 現地検討4カ所	災害対策としてトレリスの現地実証を県下4か所で実施。また、トレリスのコスト低減策として輸入トレリスを県下2か所設置した。今後普及に向けた検証を進める。

【生産販売部】

実行具体策			6年度計画	進捗状況	達成度合いと今後のすめ方
1. 生産者手取り最大化に向けた販売力の強化					
(1) 重点卸売会社、重点実需者に対するコスト上昇分の価格転嫁	契約取引価格10%以上	野菜7%UP きのこ16%UP 果実15%UP			一部未達。取引継続優先し価格据置。次年度取引にむけた商談継続。
(2) 業務・加工、輸出需要に対する多様な販売・流通手法による取り組み強化 ①業務・加工需要への対応 ②輸出需要への対応	①新規5件 ②輸出額22億円	①新規3件、 既存拡大3件 ②23億円			①新規取引組／バルク白菜（ハケ岳）カットきのこ、すりおろし用りんご（北信）既存／業務用バルクキャベツ、グリーンリーフレタス、アスパラガス ②りんご、もも、花き、白菜 増加
2. 効率的かつ安定的な輸送体制の確立					
(1) 継続できる安定輸送体制の実現 ①遠隔地及び東京・大阪・名古屋方面の輸送課題の改善	法令遵守による輸送体制の構築	パレット運用試験の実施			①11型パレット適合包材開発検討 ②リンゴ専用パレット運用試験3JA実施 ③JAによるパレットへの事前横付け取り組み累計7件（果実、きのこ）
3. デジタル技術活用による事業効率化					
(1) JA業務と連動する販売・購買システム構築による情報活用	出荷報告・予約集計システム稼働	①出荷報告機能リリース対応 ②予約集計機能卸売会社利用率80%台			利用拡大にむけたJA推進。 集出荷・分荷機能の開発継続。
4. 県本部種苗供給体制の強化					
(1) 野菜種苗センターの優良苗供給拡大	200万本	124万本供給			良品質苗の安定生産及び供給をすめた。今後、次期作に向けての推進を行う。
(2) リンゴフェザー苗の生産供給拡大（生産振興部生産本数）	6万本	5.2万本			優良生産苗供給のため、栽培指導や苗の生産管理を継続する。
5. JA・県本部一体となった長野米集荷推進の実施と販売力強化					
(1) 長野米の集荷及び実需者販売の強化	75,000t	59,347t			民間業者の直接集荷、縁故米増加によりJA集荷は減少した。令和7年度集荷販売方針を早期に決定する。
6. 包材のコスト抑制・需要の結集					
(1) 低コスト組箱の普及拡大	累計150万箱	累計35万箱			ぶどう及びあんず段ボールの低コスト化を実施。今後、北信管内のぶどうへ導入に向けて現地試験を実施する。
(2) 機能性の高い包材の導入・普及	累計12規格	累計23規格			ぶどう及びあんず段ボールで特許技術を取り入れた組箱を導入。今後、低コスト組箱の拡大に向けて、対象規格の整理と提案をする。
7. 低コスト・省力資材の開発、普及					
(1) 軽量肥料（15kg袋）の開発・普及	1,600t	2,445t			新規に2銘柄商品化決定。今後供給を行う銘柄について準備をすすめる。
(2) BB指定混合肥料の普及拡大	累計3銘柄	1銘柄製品化済			より扱いやすい原料の検討と新規採用銘柄の選定を進める。
8. 担い手への提案型推進					
(1) わたしの肥料受注推進	5,200t	5,352t			受注・製造・物流の効率化を進める。
(2) 担い手直送規格農業の普及拡大	5,800ha	6,213ha			水稻箱剤及び除草剤の受注拡大で増加。実績拡大に向けた推進を継続する。
9. システム構築・連携による業務効率化					
(1) データ連携取引先拡大によるバーコード受入力率の向上	70%	65%			新バージョンのEDIシステムにて取引先へ推進を行う。
(2) 戸配送管理システムのデータ連動	累計2JA	累計2JA			南信物流基地再編に伴い6月より累計2JAへのデータ連動。
10. 系統集荷販売力及び収益力の向上					
(1) 系統未利用・低利用の生産者等に向けたJAと連携した生産・販売提案	提案の反復による集荷量拡大	リンゴ大苗供給先訪問47件 R7アスパラガス31万本注文			継続的なアフターフォロー ①りんご下位等級品規格の推進 ②アスパラガス、定植圃場の巡回・指導
(2) りんご三兄弟・ぶどう三姉妹の販売強化と認知度向上	商標を活用した販促提案とSNSメディア・SNS活用 海外での商標権取得	りんご三兄弟・ぶどう三姉妹ともにシンガポールでの商標登録済み			飲料、菓子商品開発／10件 SNSフォロワー1万人（パシヤフル） 海外（シンガポール）フェア実施 台湾・香港・タイでの商標登録出願中

【生産購買部】

実行具体策			6年度計画	進捗状況	達成度合いと今後のすめ方
1. 包材のコスト抑制・需要の結集					
(1) 低コスト組箱の普及拡大	累計150万箱	累計35万箱			ぶどう及びあんず段ボールの低コスト化を実施。今後、北信管内のぶどうへ導入に向けて現地試験を実施する。
(2) 機能性の高い包材の導入・普及	累計12規格	累計23規格			ぶどう及びあんず段ボールで特許技術を取り入れた組箱を導入。今後、低コスト組箱の拡大に向けて、対象規格の整理と提案をする。
2. 低コスト・省力資材の開発、普及					
(1) 軽量肥料（15kg袋）の開発・普及	1,600t	2,445t			新規に2銘柄商品化決定。今後供給を行う銘柄について準備をすすめる。
(2) BB指定混合肥料の普及拡大	累計3銘柄	1銘柄製品化済			より扱いやすい原料の検討と新規採用銘柄の選定を進める。
3. 担い手への提案型推進					
(1) わたしの肥料受注推進	5,200t	5,352t			受注・製造・物流の効率化を進める。
(2) 担い手直送規格農業の普及拡大	5,800ha	6,213ha			水稻箱剤及び除草剤の受注拡大で増加。実績拡大に向けた推進を継続する。
4. システム構築・連携による業務効率化					
(1) データ連携取引先拡大によるバーコード受入力率の向上	70%	65%			新バージョンのEDIシステムにて取引先へ推進を行う。
(2) 戸配送管理システムのデータ連動	累計2JA	累計2JA			南信物流基地再編に伴い6月より累計2JAへのデータ連動。
5. JA・県本部一体となった長野米集荷推進の実施と販売力強化					
(1) 長野米の集荷及び実需者販売の強化	75,000t	59,347t			民間業者の直接集荷、縁故米増加によりJA集荷は減少した。令和7年度集荷販売方針を早期に決定する。
6. 包材のコスト抑制・需要の結集					
(1) 低コスト組箱の普及拡大	累計150万箱	累計35万箱			ぶどう及びあんず段ボールの低コスト化を実施。今後、北信管内のぶどうへ導入に向けて現地試験を実施する。
(2) 機能性の高い包材の導入・普及	累計12規格	累計23規格			ぶどう及びあんず段ボールで特許技術を取り入れた組箱を導入。今後、低コスト組箱の拡大に向けて、対象規格の整理と提案をする。
7. 低コスト・省力資材の開発、普及					
(1) 軽量肥料（15kg袋）の開発・普及	1,600t	2,445t			新規に2銘柄商品化決定。今後供給を行う銘柄について準備をすすめる。
(2) BB指定混合肥料の普及拡大	累計3銘柄	1銘柄製品化済			より扱いやすい原料の検討と新規採用銘柄の選定を進める。
8. 担い手への提案型推進					
(1) わたしの肥料受注推進	5,200t	5,352t			受注・製造・物流の効率化を進める。
(2) 担い手直送規格農業の普及拡大	5,800ha	6,213ha			水稻箱剤及び除草剤の受注拡大で増加。実績拡大に向けた推進を継続する。
9. システム構築・連携による業務効率化					
(1) データ連携取引先拡大によるバーコード受入力率の向上	70%	65%			新バージョンのEDIシステムにて取引先へ推進を行う。
(2) 戸配送管理システムのデータ連動	累計2JA	累計2JA			南信物流基地再編に伴い6月より累計2JAへのデータ連動。
10. 系統集荷販売力及び収益力の向上					
(1) 系統未利用・低利用の生産者等に向けたJAと連携した生産・販売提案	提案の反復による集荷量拡大	リンゴ大苗供給先訪問47件 R7アスパラガス31万本注文			継続的なアフターフォロー ①りんご下位等級品規格の推進 ②アスパラガス、定植圃場の巡回・指導
(2) りんご三兄弟・ぶどう三姉妹の販売強化と認知度向上	商標を活用した販促提案とSNSメディア・SNS活用 海外での商標権取得	りんご三兄弟・ぶどう三姉妹ともにシンガポールでの商標登録済み			飲料、菓子商品開発／10件 SNSフォロワー1万人（パシヤフル） 海外（シンガポール）フェア実施 台湾・香港・タイでの商標登録出願中

5. 県域農機整備事業の体制強化

(1) 県域整備拠点による系統整備体制強化	丸子…320台 堀金…180台	丸子…358台 堀金…284台	コンバイン・トラクタの重整備や農繁期修理の受入強化により、計画を上回る。
-----------------------	--------------------	--------------------	--------------------------------------

6. 農機コスト低減の取り組み

(1) 県域推奨型式設定による重点購買	累計12型式	累計12型式 (2モデル追加)	需要に沿ったモデルを既存型式に追加(型式数の増加は無し)。
(2) 中古農業機械の流通促進	サイト 成約40台	サイト 成約14台	掲載数増加に向け、業者買取実施の他、JA在庫掲載による玉確保を進める。

【畜産酪農部】

1. 生産基盤の維持確保

実行具体策	6年度計画	進捗状況	達成度合いと今後のすめ方
(1) 肉牛(枝肉)の出荷頭数確保	6,800頭	6,512頭	JA・関連会社・販社と連携し、補完的生产事業による頭数維持をはかる。JA子会社による肉牛生産基盤の拡大により、出荷頭数増加をはかる。
(2) 肉豚(枝肉)の出荷頭数確保	60,000頭	56,880頭	新規農場からの出荷、商系併用農家の取り込みにより出荷頭数確保をはかる。
(3) 生乳の出荷量確保	81,000t	77,465t	酪農家戸数の減少、夏場の猛暑による乳量低下の影響あり。県本部生産基盤対策事業の活用による基盤維持をすすめる。

2. 信州産ブランドの強化

(1) 信州プレミアム牛肉の生産販売	2,600頭	2,455頭	ブランドの認知度を更に高め、販売の強化をはかる。輸出事業者との取引強化により、和牛輸出頭数の増加による有利販売をはかる。
(2) 銘柄豚の特色ある販売方式の維持	10銘柄継続	10銘柄継続	SPF豚生産販売事業を主軸とし、お客様・販売先に支持される特色ある銘柄豚の継続と有利販売に向けた協議をすすめる。
(3) 生乳のポジティブリスト制度に係る全戸巡回	210戸	185戸	全戸巡回完了(廃業により185戸へ減少)

3. 県本部生産農場の機能発揮

(1) 素子豚の安定供給	23,000頭	19,719頭	肥育事業強化及び県内への販路拡大により生産基盤維持をはかる。疾病等による事故低減をはかる。
(2) 生乳の出荷量確保	1,900t	2,038t	飼養管理徹底による乳量確保ができていることから順調に推移。

4. 畜産酪農センターの機能強化

(1) 県本部生産農場での実習その他研修	4回/年	2回	ハケ岳牧場及び三岳牧場での若手後継者育成も含めた継続実施。外部講師を招いた実地研修により職員・JA担当者のスキルアップをはかる。
----------------------	------	----	--

5. 食肉処理施設の方角付け

(1) 長野県食肉施設検討会の協議	最終候補地及び事業スキームの決定	事業計画(素案)を策定し関係機関と継続協議	移転・整備にかかわる課題が顕在化した。食肉処理施設整備支援検討会における検討・協議により方向性を定める。
-------------------	------------------	-----------------------	--

【生活部】

1. SS協同経営方式の拡充による体制強化

実行具体策	6年度計画	進捗状況	達成度合いと今後のすめ方
(1) JA合意形成と段階的な事業方式の移行	地域ライフランSS協同経営事業方式開始	1JA1SSによる運営開始	ライフラン協同経営SSの店頭業務効率化運営に取り組んだ。7年度は加盟SS拡大に向け、希望JAとの協議をすすめる。

2. 石油取扱数量の確保

(1) 系統結集数量を背景にした仕入強化	291,000kℓ	251,458kℓ	県統一の特別対策実施等により系統結集をはかるとともに、ENEOSアプリ会員獲得をすすめる顧客固定化に取り組んだ。引き続きENEOSアプリやクイック決済ツールEnkeyの推進により顧客固定化に取り組む。
(2) キャッシュレス・Web化対応による顧客固定化	(協経含む)		

3. SS協同経営販売数量の確保

(1) SS独自キャンペーンによる来店促進	66,000kℓ	64,933kℓ	SSアプリ・LINEを活用したSS独自企画PR強化と販促クーポン券による来店促進を実施。JA事業連携としてA・コフとのタイアップキャンペーンを6JA26SSで展開。JAらしいSSづくりをすすめる。
(2) JA事業と連携した供給促進の展開			

4. ガス取扱数量の確保

(1) JA別マスタープラン実践による小売事業強化	17,020t	15,081t	14JAでマスタープラン検討会を開催。7年度マスタープラン行動計画に基づき営業推進等の行動計画進捗管理を強化する。
(2) 顧客防衛に向けた体制整備と接点強化			

5. ホームエネルギー推進体制の確立

(1) JAでんき取扱いの拡大	低圧供給 累計5,000戸	低圧供給 累計2,533戸	JAでんき取扱を9JAで展開し、6JAがセット割引を実施。引き続き、各推進施策・インセンティブを活用し推進を強化する。
(2) 灯油・LPGガス・電気のセット割引導入			

6. 自動車取扱台数の確保

(1) 営農車の台数確保と電動車の取扱拡大	2,750台	2,377台	JAサンバーを中心とした営農車のPR実施。7年度は車種を拡大した営農車キャンペーンの実施により結果強化と受注台数確保につとめる。
-----------------------	--------	--------	--

7. eコマース事業の拡大

(1) 取扱商品の拡充とJAと連携したPR強化による登録会員の拡大	21,800商品 291商品	8000会員 752会員	自販体制移行に伴い取扱商品を縮小。下期は配送料無料設定の終了及びピックアップ拠点変更を実施。7年度はサイトの企画立案と販売促進の強化をはかる。
-----------------------------------	-------------------	-----------------	---

畜産酪農課

「第51回長野県ブラック&ホワイトショウ」開催

長野県ホルスタイン改良同志会（事務局／ＪＡ全農長野畜産酪農課）は3月20日（休）、「第51回長野県ブラック&ホワイトショウ」を小諸市の小諸家畜市場で開催しました。このショウは、長野県内の代表的なホルスタイン種を展示し、その改良水準を比較検討し、今後のホルスタイン種の改良と生産者同士の交流を促進するとともに、酪農の発展に寄与することを目的に、例年春と秋の年2回開催しています（今年度は春のみ開催）。

今回は、長野県内の生産者が手塩にかけて育てた36頭の乳牛が集まり、月齢ごとに第1部から15部に分けて審査が行われました。審査員には、北海道のSTジャパン(株)より高橋忠司氏を迎え、出品牛の体型バランス等の審査講評をしていただきました。

審査の結果、グランドチャンピオンには、小林政幸さん（所属／浅間ブリーダーズ）のスプレンドール アプリコット メリツク リコッタ、リザーブグランドチャンピオンには、新海益二郎さん（所属／野辺山）のラツキーマーシュ チャーロット アニーが選ばれました。

また、第15部ジュニアリードマンの審査では、小学生から高校生が牛を引く技術を競い、中学生以下の部では新海江美さん（南牧南小学校）、高校生以上の部では新海治美さん（とわの森三愛高校・北海道）がベストリードマンに選ばれました。

ショウ前日の積雪もあり、当日は寒さの厳しい中での開催となりましたが、県内から多くの出品があり、寒さを吹き飛ばすような活気溢れるショウとなりました。また、県内外から多くの酪農関係者が参観に訪れ、今後の県内酪農事業の発展に寄与するショウとなりました。

今後も酪農家の相互交流を深め、乳牛の改良・生産の一助となるよう努めてまいります。



グランドチャンピオンに選ばれた小林さんのスプレンドール アプリコット メリツク リコッタ

畜産酪農課

京都食肉市場(株)にて「第37回信州和牛枝肉共励会」開催

ＪＡ全農長野は4月21日（月）、京都食肉市場(株)で「第37回信州和牛枝肉共励会」を開催しました。

長野県内各地から選りすぐりの信州和牛36頭が上場され、セリ販売に先立ち行われた枝肉審査で、最優秀賞に南信酪農の中原洋さんの去勢牛が選ばれました（＝表紙左）。この入賞牛はロース芯面積108cm²、霜降り度合いを示すBMSナンバーは最高値のNo12、枝肉重量をはじめ歩留り基準値や品質の高さなどが総合的に評価されました。



最優秀賞に入賞した中原氏の枝肉

京都食肉市場(株)の購買者は小売店や専門店が多いため、品質の良い枝肉は需要が高く購買層も多いことから、注目の集まる最優秀賞となりました。

セリでは枝肉の評価を反映し、3,500円/kgで落札され、京都市の京都食肉販売(株)が購買されました。

上場された36頭全頭が信州プレミアム牛肉に認定され、入賞牛5頭すべてがBMSナンバー12となりました。

また、今年度より京都市場が新たな基準で認定する「京都食肉市場特選牛」に、優良賞の1頭が初めて認定されました。新たな基準は、去勢牛ではBMSナンバー12、かつ歩留基準値82%以上という高い基準が設けられた一方、これまで29カ月以上と定められていた月齢が去勢牛では撤廃されました。今回、25カ月月齢の去勢牛が認定されたことで肥育技術の高さが認められる結果となりました。

畜産酪農課はこのような共励会をとおして、さらに「信州和牛」「信州プレミアム牛肉」および「信州アルプス牛」の認知度向上を図ると同時に、長野県内を中心に牛肉の消費拡大に向けた販売促進に取り組んでまいります。

入賞者一覧（敬称略）

賞	ＪＡ名	生産者	品種・性別
最優秀賞	南 信 酪 農	中原 洋	黒毛和種・去勢
優 秀 賞	松本ハイランド	南高原牧場	黒毛和種・雌
〃	な が の	浅岡 久志	黒毛和種・去勢
優 良 賞	みなみ信州	北沢 忍	黒毛和種・去勢
〃	長 野 ハ ケ 岳	津金 武幸	黒毛和種・去勢

(大阪販売事務所)

大学生が企画した「信州の花フェア用ブースキット」を利用した切り花即売イベント

J A全農長野大阪販売事務所は5月9日(金)、京阪神地区信州花き販売推進協議会の活動として、近畿大学東大阪キャンパスで「母の日に向けた切り花販売イベント」を開催しました。これは、2025年1月に近畿大学が開催したビジネスコンテスト「課題解決型KINDAIビジコン」で同協議会が提示した課題の「信州の花フェア売り場ブース用キット」に参加した12チームのうち、優秀賞に選ばれた3チームの企画を実現したものです。

イベントでは3つの企画「360度どこから



360度どこから見ても映える売り場キット



本型の品目紹介POP



オリジナルポスターとラッピングした花束

見ても映える売り場キット」「本型の品目紹介POP」「学生作成オリジナルポスター」を使用して売り場を作りました。販売した花はアルストロメリア、ダリア、シャクヤク、ハイブリッドスターチス、ユーカリの5品目で、いずれも5本1,000円（5本未満の場合は1本300円）。好きな花を選んでもらい、赤を基調にしたラッピングをしたうえで希望者にはメッセージカードも提供しました。

「母の日」という花を贈るきっかけがあるタイミングでの開催ということもあり、学生や教授、職員の方など多くの皆様が売り場を訪れ、490本用意した花の内、404本を販売することができました。

また、切り花の販売と合わせて実施した、花に対する意識調査はアンケートに協力していただいた学生にリンゴジュースをプレゼントし、103名の学生から回答をいただきました。アンケートにより、若者の花に対する印象や関心の有無、贈答経験などを把握し、今後の消費宣伝活動やマーケティング戦略に生かしてまいります。

米穀課

県スポーツ協会に長野米などを寄贈

J A全農長野は県内スポーツの強化を目的に、長野県産米「コシヒカリ」などを長野県スポーツ協会に寄贈しました。寄贈したのは県産「コシヒカリ」3トン、県産リンゴジュース3,000本（1本160グラム）、県産なめたけ1,500本（1本120グラム）

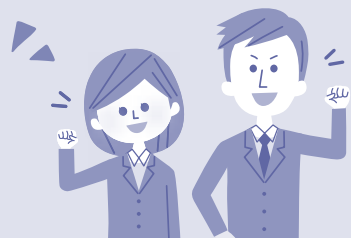
4月21日(月)に長野市で開いた寄贈式で、根津彰寛副本部長が「本年も地元の農業団体として精一杯応援させていただく」と目録を手渡しました。北村理事長は「今年も沢山のお米などを寄贈いただき、感謝申し上げます。各チームとも大会で好成績を残し、県民に大きな感動と勇気をもたらしました。2028年には長野県で国スポが開催されます。引き続きご支援賜ればありがたい」と感謝しました。

全農長野は「たくましい選手が育つよう選手強化に役立ててほしい」との願いを込めて平成11年度から毎年寄贈しており、今年で27回目となりました。

New face

新採用職員紹介

令和7年度の新採用職員を順次ご紹介します



管理部



総務広報課

すずき ももな
鈴木 桃菜

パソコンとにらめっこしながら
早く慣れるよう、頑張ります！

はじめまして、管理部総務広報課の鈴木桃菜と申します。

出身は長野市です。趣味はドラマ・映画・アニメ鑑賞、ハンドメイドです。インドアな時間を楽しむことが多いので今年は各地の自然に触れたり、おいしいものの探しを楽しみたいと思っています。

至らない点が多くまだまだご迷惑をお掛けすると思いますが、1つずつ課題を改善していき日々成長できるよう努力してまいります。よろしくお願いいたします。

生産販売部



米穀課

よねざわ えみ
米澤 笑美

米穀課にぴったりな名字なので
覚えていただきやすいです！

はじめまして、米澤笑美と申します。

趣味は、映画鑑賞と読書です。冬には長野の素晴らしい景色の中でスキーをするのが好きです。

私を育ててくれた地元長野と家族に恩返しをしたいと考えたときに、真っ先に本会が頭に浮かび入会を決めました。農業の知識が乏しいため、日々手探り状態でご迷惑をかけてばかりですが、新しい分野を学ぶことができ毎日充実しています。

一日でも早く一人前になれるように、精一杯精進してまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

生産販売部



野菜きのか課

みやもと はやた
宮本 隼汰

信州力とともに！

はじめまして、生産販売部 野菜きのか課の宮本隼汰と申します。出身は長野市で自然豊かな土地で育ちました。

趣味は旅行や競馬、読書などその他にも広く浅くいろいろなことをするのが好きです。

実家が農家で農業は身近な環境で過ごしてきましたが、わからないことが多く、毎日が勉強中です。一日でも早く長野県の農業に貢献できるよう精一杯頑張っていきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

生産販売部



営業課

ひらばやし まひる
平林 舞宙

営業課隣の河川敷の景色です

はじめまして、営業課の平林舞宙と申します。出身は青木村です。

生まれてから22年間ずっと長野県で暮らし、新鮮でおいしいものをたくさん食べて育ちました。豊かな自然に囲まれた長野で育まれた農業と食の魅力を発信し、地域に貢献できるよう、日々努力してまいります。

野菜担当として、わからないこと、できないこと、新しく吸収する毎日ですが、初心と楽しさ自分らしさも忘れず、精一杯業務に励みたいと思えます。

どうぞよろしくお願いいたします。

JA全農長野の事業現況

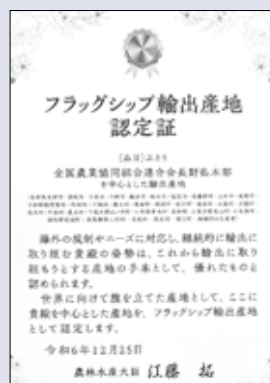
令和7年度4月末総供給販売高実績表 (単位:百万円、%)

品目	区分	当年度実績	計画比	前年比
生産振興課		0	0	2
野菜種苗センター		38	111	123
生産振興部計		38	111	109
米	穀	1,937	104	142
果実花き		180	60	73
野菜きのこ		1,599	88	92
営	業	426	111	114
生産販売部計		4,142	95	111
農業資材		737	106	104
肥料農薬		1,455	111	114
農業機械		757	125	120
施設住宅		91	87	50
生産購買部計		3,042	112	108
畜産酪農		2,896	126	122
三岳牧場		35	134	110
S P F繁殖センター		26	94	104
ハケ岳牧場		23	96	94
畜産酪農部計		2,980	125	122
燃料・ホームエネルギー		2,345	124	105
S S 協同経営		750	141	106
くらし		598	96	78
くらし支援部計		3,693	121	99
長野県本部計		13,894	111	109

(内部販売高含む)

農林水産大臣より 「フラッグシップ産地」に認定

農林水産省は、海外の規制やニーズに対応しながら継続的に輸出に取り組む、他の産地の手本となる産地を「フラッグシップ輸出産地」として認定しています。JA全農長野は県内JAとともに、長年にわたりアジア圏などを中心に農産物の輸出に取り組んでおり、今回、このことが評価され「フラッグシップ輸出産地」(ぶどう部門)として、農林水産大臣より認定を受けました(2月26日認定証受領)。



フラッグシップ輸出産地認定証

この認定を受けることで、輸出産地としての信頼性が高まるだけでなく、農林水産省からの情報発信や海外バイヤーとのマッチング支援など様々な形で支援を受けることができるようになります。

今後も、輸出拡大を通じて、生産基盤の維持・拡大と、生産者の所得向上、国産農畜産物需給の安定化に取り組んでまいります。(果実花き課)

6月のラジオ番組表

放送日時	放送局	番組名	出演
6/10(火) 11:50	SBC ラジオ	坂ちゃんの ずくだせえぶりでい内 「いい」JAん家庭菜園」	JA大北 JAファーム大北 南部店
6/25(水) 11:50	SBC ラジオ	坂ちゃんの ずくだせえぶりでい内 「暮らしの応援団」	野菜きのこ課

グリーンレーダー
X(旧ツイッター)はこちら



グリーンレーダー
WEB版はこちら



編集後記

この時期は、水田をみると苗が縦にも横にも整然と一列に並んでいます。朝には爽やかなさを感じ、夕方には水田に映える素晴らしい夕焼けの景色に圧倒されます。

直射日光を受ける水田での作業は、生産者の皆さんも熱中症にも気をつけておられるでしょう。

気温の上昇とともに、厄介な雑草の処理が課題になってきます。私も小規模ですが、キュウリ、ナス、ピーマン、馬鈴薯など様々な野菜を育てています。適度に降雨があると畑に雑草が生え始め、その除草作業に苦労しています。自分で植えた野菜のため、時間を忘れて夢中で丁寧に除草をしていると、時のたつのが早く感じられます。そして同じ姿勢で作業をしていると、立ち上がった時に立ち眩みを感じます。

適度な休憩が必要なのはわかっていますが、つい夢中になると水分補給も忘れて、少しでも雑草を除去したいと前のめりになり、雑草のある方向へ進んでいってしまします。その代償として、腰痛などの反動に悩まされる事を繰り返しています。

暑い夏に向かっていく中で、農業での適度な休憩と水分補給を行い、自らの身体もいたわりながら、自分が育てている野菜苗の手入れを行い、収穫時期によるこびを感じたいと思うこの頃です。

(丁)

農業機械ご成約 プレゼントキャンペーン

1台
あたり

150万円(税込)以上の農業機械ご成約の方に
もれなくプレゼント!!

キャンペーン期間 令和7年6月1日~8月31日ご成約分まで

A ご成約金額(税込)
150万~300万
コース
1品選べます 円未満



1
信州産豚肉 / 焼肉用セット
(ロース 300g x 2, 肩ロース 300g x 1)

2
リンベル
カタログギフト
(ジャズ)



B ご成約金額(税込)
300万~500万
コース
1品選べます 円未満



1
信州アルプス牛ロース
/ すき焼き・しゃぶしゃぶ用
(500g x 2)

2
リンベル
カタログギフト
(ミュージック)



C ご成約金額(税込)
500万円以上
コース
2品選べます



3
アラジン トースター
(グラファイトトースター AET-GS13C)



コンパクトなので色々な
場所に持ち運べます。

4
ケルヒャー 掃除機
(バキュームクリーナー KWD1)



※写真は全てイメージです。

応募方法

ご成約JAにてお渡しする、キャンペーン応募用紙にてお申し込みください。
※応募用紙にご記入の個人情報はプレゼント発送以外の目的で使用いたしません。

お問い合わせは、
お近くのJA農機センターへ

夏の農作業はこまめに水分
塩分を補給し休憩を取って **熱中症予防!**



声かけ・点検・整備
ヘルメット・シートベルトで **農作業安全**

農業機械に関するご相談
お求めはお近くのJAへ

JA農業機械センター・JA全農長野



光と風と水のハーモニー

JA全農長野

JA全農長野ホームページ..... <https://www.nn.zennoh.or.jp>
インターネットで産地直送「JAタウン」..... <https://www.ja-town.com>

